片貝新聞

発行所
片貝新聞社
〒947-0101
小千谷市片貝町10367-4
TEL　0258-84-3246
FAX　0258-84-2632
編集発行人　吉原芳郎
印刷所　吉原印刷㈱

題字　黒崎敬湶氏

JA片貝町
シンボルマーク
天の恵み地の恵み

今年は開くか4尺玉
片貝まつり近づく
既に問い合わせは多数

9月9日大型花火打上予定

▽七号玉10段～PM7時30分＝片貝町煙火協会
▽スターマイン～PM8時10分＝位下印刷
▽スターマイン～PM8時30分＝三十三才成友会
▽スターマイン～PM8時50分＝松下電送
▽三尺玉～PM9時＝農林菌類
▽三尺玉～PM9時30分＝三洋電子
▽三尺玉スターマイン入れ～PM9時45分＝酔心会
▽四尺玉～PM10時＝片貝町総参加
▽スターマイン～PM10時20分＝片貝若連号

9月10日大型花火打上予定

▽三尺玉～PM2時＝古希和風会
▽七号玉10段～PM7時30分＝片貝煙火工業
▽スターマイン～PM8時30分＝松下電送
▽スターマイン～PM8時50分＝還暦若杉会
▽三尺玉～9時＝しなの産業
▽スターマイン～PM9時20分＝五十才永遠会
▽三尺玉～PM9時30分＝メルベ企画
▽スターマイン～PM9時40分＝四十二才酉戌会
▽スターマイン～PM9時50分＝成人愛郷会
▽四尺玉～PM10時＝コカコーラ
▽スターマイン～PM10時20分＝三組若・小若

花火番附は9月2日にできあがり、一之町山口新聞店（☎84－2005）・三之町丸正商店（黒崎交商☎84－3747）・片貝支所で販売。

片貝物産店（三之町）と片貝若連合（神社境内）もまつり当日番附を販売する。

主な行事

【8日】▽民謡流し（午後7時20分出発雨天中止）【9日】▽筒引き（午前8時～午後3時）▽玉送り行進（午後2時30分～11時）▽お囃子コンクール（午後6時～9時）【10日】▽玉送り行進（午前8時～午後11時）▽片貝小鼓笛隊パレード（午前10時出発雨天中止）▽相撲大会正午より※なお、今年も参道入口前に物産展土産コーナーを開催する。

10/3 第9回片貝中同窓祭
ジョージ本田マジックショー

第9回片貝中学校同窓祭がきたる10月3日片貝中学校体育館で開催される。

今回はつどい会（第21回卒）とさざなみ会（第33回卒）が当番幹事となり、実行委員会（浅田広明委員長第21回卒）を組織して、企画、運営、その他の諸準備を中心となって進めている。

当日の日程は午後5時開場、6時から片中同窓会の総会、6時30分からの同窓祭にジョージ本田のマジックショーを開催する。

ジョージ本田こと本田正次さんは今月10日の片貝まつりに50才記念行事を行なう永遠会の会員で現在、世界各地で最高のマジックショーを演じているプロのマジシャン。（ジョージ本田さんについては、小紙平成8年1月1日号のヒューマンウォッチング新春特集に記載）記載後の活躍、平成10年6月に日本海マジックフェスティバルを主催、また今年1月ドイツで開催された、世界マジックコングレスで準優勝、3月ワールドマジックセミナー（ラスベガス）に招待公演、6月第4回ワールドマジックセミナーJAPANにゲスト出演と多忙の日々。尚、世界のトップレベルのマジックショーを見るには入場整理券（千五百円）が必要。各実行委員が取り扱っている。関係者は「あなたも片中体育館でマジカルパワーで不思議な夢を、体験してみませんか？多数のご来場を」と呼び掛けている。

盆踊り大会
仮装はヤヨイ大学

毎年恒例の盆踊り大会が8月15日(日)・16日(月)の両日午後8時から浅原神社境内で賑やかに繰り広げられた。

今年は天候にめぐまれて人の出は例年並みであったが、踊りを踊る人が毎年少なくなっていて一抹の淋しさを感じる。今年はチーム対抗盆踊り大会は昨年より少ない5チームの参加で、ヤヨイ大学民謡部が昨年に引き続き優勝。町民仮装大会も昨年より3ツ少ない3チームの参加で、NCSCチームが優勝した。

盆踊り大会での入賞は次のとおり。

【チーム対抗盆踊り大会】①ヤヨイ大学民謡部、②ちどり会、③愛郷会、④翠心会、⑤恒曄会

【町民仮装大会】①NCSC『ナースのお仕事』、②ブラック・ペッパー『変なおじさんファミリー』③石上一孝『バルタン星人』

読みきかせ

絵本や紙芝居の読みきかせのボランティア実施の「読みきかせ会」の9月の活動予定は、3日(金)午後3時30分～、17日(金)午後3時30分～の、二回いずれも片貝ふるさと会館で開催。

市小学校親善水泳大会
片貝小は3人4種目で優勝

新潟県小学校親善水泳大会第32回小千谷大会（県小体連、市教委、市小体連主催）が7月27日、市民プールで開催され、市内17小学校の5、6年生500名前後が日頃の練習の成果を競いあった。この大会昨年まで小千谷小学校のプールで行なわれており、今年初めて市民プール（50m）での開催となった。

片貝では6年生の吉井里美（茶畑）が個人メドレー200m＝3分29秒6の大会新記録・バタフライ50m＝42秒6の二種目、6年生の佐藤理恵（三之町）が自由形100m＝1分45秒8、5年生の佐藤育代（高見）もバタフライ50m＝1分1秒0の計4種目に優勝した。

片小の成績は次のとおり。

【5年男子】
▽平泳ぎ100m＝②黒崎康拓良

【6年男子】
▽背泳ぎ50m＝⑥大平竜也

【5年女子】
▽自由形100m＝⑥横山夏紀
▽背泳ぎ50m＝③安達里美
⑤安達友香理
▽バタフライ50m＝①佐藤育代

【6年女子】
▽自由形100m＝①佐藤理恵
▽背泳ぎ100m＝②佐藤理恵
▽バタフライ50m＝①吉井里美、⑥勝又愛子
▽個人メドレー200m＝①吉井里美
▽女子メドレーリレー200m＝③片小
▽女子リレー200m＝④片小

お盆町内対抗野球

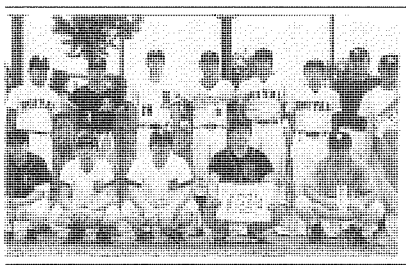
第44回お盆町内対抗野球大会（主催＝片貝町野球連盟）が8月14日(土)午前8時から二会場で、6チームが参加して開催された。

当日は小雨のなか片貝中学校グランドでは、一之町チームは一回戦で片貝中学校チームを3対0、二回戦では三之町チームに5対1で勝ち決勝へ駒を進めた。

片貝スポーツ広場では、町裏チームの一回戦は二之町連合チームを4対0、二回戦では四之町・五之町・八島連合チームに8対4で勝ち決勝戦へ。決勝戦では町裏チームが熱戦の結果、昨年度優勝の一之町チームを5対3で敗り優勝した。

なお、町裏チームの小野塚吉紀選手が二回戦で彼自身今年2本目となるホームランを打ち、閉会式で太刀川野球連盟会長からホームラン賞が贈られた。優勝チーム（町裏、写真）のメンバーは次のとおり

▽山口宏之、大矢健太郎、本田勉、藤塚欣一、藤塚裕樹、安達孝人、黒崎仁、小野塚吉紀、大矢保、本田敦、安達徳義、丸山信一、小宮文男、安達啓



各種野球大会

片貝野球連盟（太刀川忠雄会長）主催で行なわれた各種大会は次のとおり。

▽第35回節句野球大会

5月16日(日)午前8時30分から片貝スポーツ広場に、3チームが参加して、リーグ戦を行ない、レッドスネークスが全勝の成績で3年ぶりに優勝した。

▽第30回お盆野球リーグ戦

6月13日(日)午前8時30分から片貝スポーツ広場で、4チームによるリーグ戦が行なわれ、第一試合のレッドスネークス対ペガサス戦でレッドスネークスの小野塚吉紀選手が今年初のホームランを打った。レッドスネークスと、となかいの決勝戦は雨天順延で、7月18日行なわれ、となかいチームが優勝した。

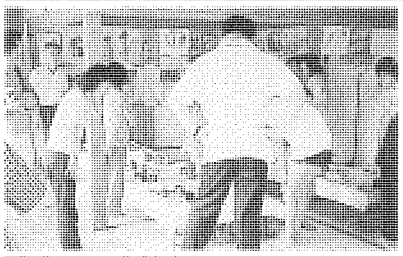
▽第7回本田善治杯ナイターリーグ戦

7月6日～8月3日まで片貝スポーツ広場でAブロック4チーム、Bブロック3チームでリーグ戦を行い8月5日からの決勝トーナメント戦にはA・Bのそれぞれのブロック一位と二位の4チームが駒を進め、9日行なわれた決勝戦ではプロティンが片貝中学校を5対0で敗り優勝した。

初窯の陶芸作品展賑う
ふれあい公園で開催

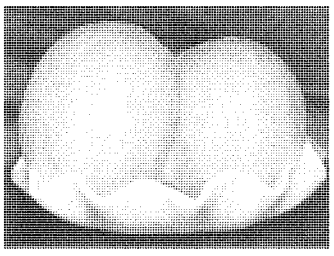
片貝公民館主催の初窯陶芸展が去る8月15・16日の両日午前10時から、ふれあい公園けやき園の忍字亭で開催された。

当日会場には「陶芸クラブ」、ヤヨイ大学の「陶芸講座」、くらしの学級の「陶芸教室」、夏休みの親と子の陶芸教室等で作った小さいものは箸置きから大きな花瓶など色々な傑作品が、片貝保育園の年長組の園児たち（39名）の絵と一緒に展示され、二日間で会場を訪れた二百名以上の人達の目を楽しませていた。会場の一隅では、陶芸クラブ員の制作した陶芸作品が当たる、お楽しみ抽せん会があり、入場した人全てが抽せんを行い、当たった人、ハズレたひとで会場は盛りあがっていた。また、けやき園では片貝陶芸クラブを指導している、小千谷市上ノ山の佐藤守さんによる「陶芸体験コーナー」が二日間とも実施され、20名前後の参加者があり、初めてのひとは「大変おもしろく、良い体験をしました。新しい陶芸窯での焼き上がりが楽しみです。又陶芸教室があれば参加して作品を作ってみたい」と語っていた。



双子のメロン誕生
茶畑の小宮弘二さんの畑で

これは珍しい、双子のメロンが誕生。茶畑の小宮弘二さんの畑でとれたメロンは二つ重なって、ちょうど双子のメロンのよう。このメロンは奥さんの君子さんが苗を植え、旦那さんが消毒、二人仲良く育てたメロン、収穫してビックリ。さっそく仏壇に供えたり、知人や近所の人に見せたりして評判になっていたが、試食され、味は他のメロンと変わりなかった。



主張

花火桟敷の値上について

片貝人の血が騒ぐといわれる浅原神社の秋季大祭が近づき、このところ平穏に見えた"片貝まつり"も俄に騒々しくなってきた。

今まで陰では結構批判がましいことは彼方此方で言われていたが正面切って言う人は少なく、言ったとしても村八分にされかねない雰囲気があり「和」を乱すという美名のもとに一寸した意見さえ反対者とみなされ除外されてきた。ところがここにきて堂々と名前をだして本紙に投書するという勇気ある人も現われてきた。

投書にあるごとく、たしかに花火桟敷の価格を一挙に五千円も値上げする必要があったのかどうか別にして、聞くところによると昨年から値上げは考えていたが町外観光業者は昨年中にすでに予約を受けており、そのように観光客を募っているので今更変更できず、地元関係だけに値上げをお願いすることになったというのが真相らしい。

昨年はいろいろ経費がかさんで赤字決算になったのがその理由らしいが、一部の関係者以外利用者たる一般の町民には、何の決算報告もされていないので、どこの団体でいくらの金額か知る由もないが、補助金が煙火協会から出されていることについても知らずにいる。さらに今回町内外の価格差の説明も充分になされず、この不況下リストラや収入減で多くの人が喘いでいるこのごろ、たとえ一年一回のこととはいえ一挙に五千円という金額にどうかなと首を傾げる人は決して少なくない。自分達はこんなに苦労して祭りのためにやっているのだから、赤字の補填など当然だという気持も分からないではないが、片貝総鎮守のお祭りなのだから、嫌なら買わなければよいといった投げ遣りな考えではなくもっと親切心や説明があってもよいように思う。

今までの経費や補助金等についても再吟味し、その上でどうしても費用がかさんで値上げやむなしということになれば誰もとやかく言う人はあるまい。民主主義というのは手間暇のかかる制度で、きちんとした手続きを踏んで懇切な説明をし了解を得なければならないという厄介さがある。

また四尺玉花火打ち上げに対する町民総参加の募金についてもいたって不興を買っている。もちろんこれも別に強制的ではないが、隣近所の顔見知りの人が取りにくることになると、心ではともかく勇気のいることで断りにくい雰囲気にはある。これは少子化による参加者の激減がその主たる理由のようだが、それにしては協賛金の募集ばかりで玉送り行事の呼びかけもなく依然として協賛会は残っており、協議会は金集めだけやるのかその点がどうもはっきりしない。幸にも腰の重いあの協議会が今回は音頭を取り全町民に募金の呼び掛けを行なったことは、今後佐藤邸問題をはじめとして、全町的に金のかかることに対し一つの先鞭を付けたものと理解し大いに喜ぶべきことだと思う。

かたかい春秋

今夏は記録的猛暑であった。読者諸氏は夏バテ、クーラー病などにかかっていないだろうか。朝、晩はめっきり涼しくなったようではあるが、残暑厳しい日はまだあるやも知れず、体調維持には呉々もお気をつけの程を。▼片貝まつりがいよいよ目前に迫ってきた。盛り上がる祭り気分に水を差すようで恐縮であるが、改善すべき点は改善して行かねばならない。先の警備会議の席上、中学校々長から「学校でもきちんと指導しているが、町民の皆さん、特に若者リーダーの人達は、中学生に酒を呑ませないでほしい」旨の発言があった。"祭りであれば多少のハメをはずすことは許される"との甘えが助長した悪しき、悲しき事態である。大人が中心となり、即刻止めさせようではないか。▼成人いじめはなくなったようで、これは評価すべきことであろう。今号二面の投稿欄を一読願いたい。値段の格差を知ったら、誰もが抱く疑問であろう。その理由をきちんと町民に示すべきで、この問題は大金が動くことであるので、とかくまことしやかな噂が前々から飛びかっているようであるが、中枢の人達はこのことをご存知か。"神社奉納"という錦の御旗の元に、甘えがないのかどうか、きちんと町民に分かるようにしてもらいたいものである。▼このところあまり聞かれなくなったが、「片貝まつりは我々町民のまつりで、外からの人は勝手に来ているだけ」との発言は、一体どこをどう押したら出るのか。であるなら、ポスターを初め一切のPRは止めるべきで、各マスコミの取材にも応じるべきではあるまい。全国的に有名になったことに町民は誇りを持っている以上、中枢のこの発言は禁句。

片貝スポセン、クレーコート化なる
記念ゲートボール大会開く
オープニングセレモニーも行なう

改修工事のため今年4月から貸し出しを中止していた片貝スポーツセンターが、予定通り7月30日に工事が完成し、8月11日午前11時からオープニングセレモニーと片貝ゲートボール協会（五十嵐常雄会長）主催によるクレーコート完成、柿落し親善ゲートボール競技会が開催された。

同センターは、改修工事費三千七百三十九万八千円で、これまでの板張りにかわり〝砂入り人工芝〟を導入、ステージ部分を取り去り面積が以前より広く約千平方㍍になりゲートボールコート二面とテニスコート一面のラインが引かれ、テニスのネットが張られている他、身体障害者用トイレ、センター入り口の段差をなくす等のバリアフリー化、会議室、昇降式照明などが新設され、冬でも屋外種目のスポーツが楽しめる多目的施設として、生まれ替わった。

オープニングセレモニーは、市から関市長初め関係職員、議会から広井副議長他6名の市議会議員、地元からは吉井協議会々長を初め百名前後が出席して行なわれ、関市長は「平成7年から一般に開放しておりました、この施設も湿気による床板の腐食や何かと不便が目立つようになったので、国の補助制度を導入して、小千谷市で唯一の室内スポーツ施設ができましたので沢山の方々から利用して頂きたい。」と挨拶。

ゲートボール競技会は各町内1チーム計8チームが参加して、第1コートと第2コートにわかれて、各チームが二試合づつ競技を行なった。初めて砂入り人工芝で競技を行なった人たちは「球は真っすぐに転がるし、走り具合も良く、スパイクするにも安定感があって良いコートです。」「風が入らないで熱いですが、直射日光があたらないので屋外よりらくです。」と語り、五十嵐会長は「これで雨の日でもゲートボールが出来るようになりよかったです。」と語っていた。

スポーツセンター内では
▽汚れや泥等の着いたまま絶対に入らない事。
▽休憩室以外ではタバコを吸わない事。
▽飲食も休憩室以外ではしない事。（水をこぼすと芝コートが駄目になる）
▽ゴミは各自必ず持ち帰る事。ゴミ箱は置きません。
▽終了後は必ず専用ブラシで整理する事。

これらの事を守って、スポーツセンターを利用して下さい。……と関係者

被爆体験講演会
苦しい体験を切々と語る

市では今年も去る7月22日午前9時から片貝中学校で被爆体験者の山岡ミチコさん（69）による非核平和講演会を開催した。

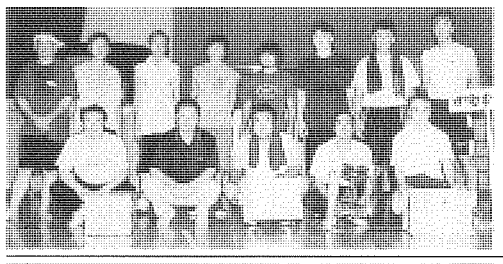
山岡さんは広島市生まれ昭和20年8月6日に投下された原爆を、爆心地から800mの路上で被爆。瓦れきの下に埋もれている所を、探しに来た母親に助け出された。戦後、アメリカの慈善活動団体の招きにより、25人の原爆乙女の一人として渡米して、ニューヨークの病院で治療を受けた。21年前から被爆体験を国内外で語り、平和の大切さと命の尊さを訴え続けている。

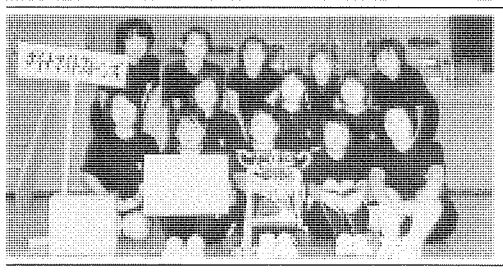
講演要旨は次のとおり

『私たちが皆さんと同じ中学生の時は戦争の為、勉強は一日一時間でそれ以外の時間は学徒動員であらゆる職場で働いていた。私も電話局今のNTTで働いていました。当時の広島市民は「広島は爆撃を受けない」と聞かされ、みんなは安心していました。原爆の投下された六日の朝空襲警報が解除になったので、いつものように電話局に出勤の為家を出て爆心地から八百m付近で、雲ひとつない青空に飛行機の音がした。それを見ようとして手をかざした途端ピカッと美しい光。それが原爆だった。爆風で

身体が飛ばされ瓦れきの下敷きになりもう死ぬものと思い「お母さんさようなら」と言って気を失い、それからどれくらいの時間が過ぎたか私には分かりませんが、「ミチコミチコ」と呼ぶ母の声で気がつき助けだされました。こうして今、みなさんの前でお話できるのも母のおかげです。被爆した私は身体の痛みは全くなかったが、髪はなくなり皮膚はペロリとはがれ、膨らんだ顔はまつ毛も眉毛もなくなっていた。死体の山の中を逃げている途中で逢った友人は「水に入って身体を冷やした方がいい」と川に入ったまま、二度と私の所へは戻って来なかった。目の前で友人が死ぬこれが戦争。彼女は私の身代わりに死んでくれたのだと思っている。被爆により、箸やこうしてマイクも持てなかった手、肩にくっついたままの頬などを戦後、アメリカの病院で十年間にわたる治療、二十七回の手術を受けようやく今の状態までに回復した。アメリカでの治療の際、多くのアメリカ人と接して感じたことは「悪いのは人でなく戦争なんだ。戦争がなければ人と人は憎み合わない」と気付いた。私を助け、かばい、励まし続けてくれていた母が二十一年前に他界したとき、遺骨の左腕から、爆風で骨の中に入ったままのガラスの破片が出てきたのを見て、五十年前の出来事は決して昔話ではない、戦争の惨めさを語らなければならないと感じた。君たちは私たちにはできなかった「はっきりものを言う」「自分の力で判断する」「その判断によって行動する」と言う三つの事を身に付け、世の中に負けない人になって下さい。これから生きる為には自分の事は自分、親の責任でも、先生の責任でもないという事を知り、自分自身の生き方を大切にして、多くの命の犠牲の上に今の平和がある事を知り、これからも戦争のない、平和の社会を君たちの手で作って頂きたい。君たちなら出来ると山岡さんは思う。』

JA片貝町ふれあいドッヂ
優勝は四之町(男子)とダイナマイトク(女子)





JA片貝町（友田明石組合長）主催の第4回JAふれあいドッヂボール大会が8月8日(日)片貝中学校体育館で開催された。

午後1時から受け付け、1時45分から開会式が行なわれ、2時から競技開始となった。参加チームは男子10チーム、女子8チームで男女ともAとBのブロックに分かれ予選リーグ戦を行ない、上位二チームずつ四チームが決勝トーナメント戦を行なった。

男子は友田組合長もメンバーの四之町ボンバーズが予選リーグを3勝1負で決勝戦に進み、準決勝戦は町裏チームに2対1で勝ち、決勝戦では昨年度の優勝チーム五之町チームを2対1で敗り初優勝した。

女子ではダイナマイトクイーンズ（二之町・茶畑、昨年まで四尺玉クイーンズ）が予選リーグを3勝全勝で決勝戦に駒を進め、準決勝戦は鴻巣チームを2対0、決勝戦も五之町チームを2対0で敗り全勝、負けしらずの成績で四連覇。結果と優勝チームの登録メンバーは次のとおり。

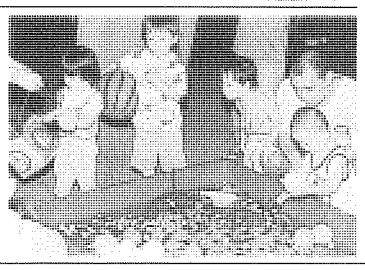
▽男子＝①四之町ボンバーズ（監督吉原正幸、主将佐藤雅則、友田理、安達浩昭、宮島睦、吉原崇、安達和志、大塚博文、安達淳、小林登、浅田博、名塚孝一、友田明石）、②五之町チーム、③町裏チーム、③高梨Bチーム
▽女子＝①ダイナマイトクイーンズ（監督藤塚範子、主将吉井幸子、安達由美子、小野塚貴子、佐藤あゆみ、太刀川美由喜、藤塚千恵子、舎川よし子、神林正子、佐藤公子、中島真理、大矢千帆、金子千枝子、小宮恵子、松井益美）、②五之町チーム、③YNレディース、③五之町チーム

フェスティバルも賑わう
そうめん流しなど大人気

JA片貝町（友田明石組合長）は去る7月28・29の両日の夜をメインに、JA車両センター前広場で、99JAフェスティバルを開催した。

当日会場には農機具を初めとする展示商談会や展示即売会、35度を越す猛暑の中、職員が汗を流してタイヤキ、タコヤキ、ヤキトリ、ヤキソバ、ハマヤキ、カキ氷などの模擬店、女性部は新鮮な野菜、漬物など手作り商品の販売を行なった。また、はずれなしの「ふれあいおたのしみ抽選会」は大人気。職員手作りの涼味満点のそうめん流しは子供たちの人気を呼んでいた。

特設ステージでは、28日午後7時30分から相撲甚句、五之町神楽、29日午後7時30分から、インドネシアから鴻巣の五十嵐さん宅に、農業研修生として滞在中のニンディアさんを初め13名による「ふれあい歌謡ショー」が繰り広げられ大変の盛り上がりであった。



ゲートボール高梨A優勝

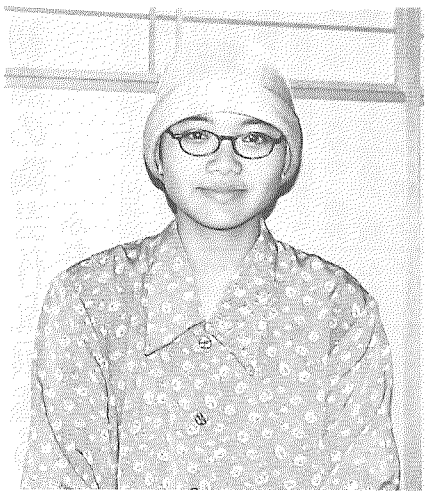
また、今年も昨年に引き続いて、JAフェスティバル第2回組合長杯争奪ゲートボール大会が、28日午前8時30分から、屋敷ふれあい広場特設コートとJA片貝町生産課コートに14チーム82名が参加して、気温35度を上回る炎天下の中、熱戦が繰り広げられ、高梨Aチームが優勝した。成績は次のとおり。

▽優勝＝高梨A（大平功、坂詰勇治、金子久作、鳥羽清、清水トミ）
▽準優勝＝寺町ヤヨイ会
▽特別賞＝高梨B、四之町レディース

片貝ヒューマンウォッチング
アディニンディアさん

鴻巣の五十嵐正弘さん（48）宅に、去る4月11日から11月30日まで、農業研究生として滞在中のアディニンディアさん（26）に登場願った。既にJA片貝町フェスティバルのカラオケ大会に出場するなど、片貝町ではちょっとした有名人で顔は〝売れて〟いる。

アディニンディアさんは、インドネシアからやってきた。国立ガジャマダ大学で都市開発を学んだエリートで、今回日本に来るについても試験に合格してのものである。合格後一カ月間日本語を勉強して、4月2日仲間62名と共に来日。東京都、群馬県、福井県、新潟県の四つの法人に分かれたが、アディニンディアさんは他の6名と㈳新潟県国際農業交流協会に配置、縁あって五十嵐さん宅に滞在することになった。



母国では祖母、父母、妹、弟の6人家族で、両親はランの栽培を生業としている。この関係で五十嵐さん宅では、ユリの栽培を中心に働きながら学んでいる。インドネシアは冬がない暖かい気候であるためユリは育たないが、ランの栽培に役立つ筈、と仕事に励んでいる。特にオランダからユリの球根を輸入し、花に育て販売しているそのシステムを勉強して帰り、将来は大きなラン農園を経営して、日本を初め海外にランの苗を輸出することが夢という。その他、水稲栽培、野菜作りも学んでいる。

JA片貝町のカラオケ大会に出場して、一躍人気者に。この前はやはりJA片貝町主催のドッヂボール大会にも鴻巣チームの一員として参加した。生まれて初めてのドッヂボールは、大変楽しかったという。長岡の花火も見た。日本のお盆も体験して楽しいことばかりで、来日してまだ悲しいことはない。そしてもうすぐの片貝まつりでの四尺玉花火などが楽しみ、と笑顔で語る。

休日は五十嵐さんの親戚や、友人達の所へ遊びに行ったり、国の家族に手紙を書いたりして過ごしている。

五十嵐さん宅では、十一年前から㈳新潟県国際農業交流協会のアセアン農業研究生受入事業に協力し始め、初年にタイ人、二年目からずっとインドネシア人を受け入れ、平成八年だけ休み、アディニンディアさんが10人目。五十嵐さんは「家族の一員として一緒に暮らしている。頭もよく、大変な楽天家で助かる」とアディニンディアさん評を語りながら「母国でラン農園を成功させてほしい」とエールを送っている。

G狂応援ツアー

夏休みの子供達への思い出づくりに、と片貝町のG狂「長嶋G応援ツアー」は、8月7日東京ドームの広島戦に総勢70数名参加で実施され、8対7のサヨナラ勝ちを観戦してきた。これで9年目で7勝2敗。

読者投稿
片貝まつりに思う

一之町二区　工藤　義里

祭りも近づき煙火協会並びに関係者の皆様には毎日大変ご苦労様でございます。

先般花火桟敷の値上げについての通知がありましたが、この不況下多くのものが値下げ状態にある今日、値上げの理由については何の説明もなく、それも一挙に五千円という高額の値上げで少し不可解に感じていました。

ところがある会合の席で、

「今年の祭りの桟敷はのぅ、地元は三万円で観光で他所から来る人はのぅ二万五千円だト、普通なら逆でねぇろかのぅ」

ということで最初は私もそんな馬鹿なことがと信じなかったのですが、後で煙火協会の方が桟敷の集金に来られたので、価格差のことについて尋ねると、

「あれはのぅ上の人達が決めたことで俺もどうしたそうなったか良く知らねぇ」

という答えが帰ってきてあ然とするやら怒りがこみあげてきました。

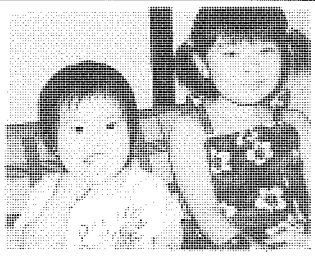
費用がかかり値上げしなければならないのは理解できるにしても町内と町外とでなぜ差をつける必要があるのだろうか。さらに決算の報告もなされず、内容も知らせず一方的に高額の値上げが必要とはどうしても理解できません。

片貝祭りは地元全町民の祭りであって、町民なくしての祭りは考えられません。浅原神社に花火を奉納し心から祭りを楽しむ片貝町民こそ祭りの主体だと考えるからです。

折に触れ片貝祭りの将来を考えるとき、もう少し開かれた祭りとなるよう、町民こぞって検討する時期が来ているのではないでしょうか。

ハローベイビー

○相崎真衣（まい）ちゃん（寺町）
パパ保雄さん（34才）
ママ昌美さん（34才）
第2子二女
平成10年8月7日生
現在の体重8.5kg身長73cm
Q名前の由来
A真心とやさしさにつつまれた人生を歩んでほしいという願いを込めました。
Qお子さんの様子
A自分の身の回りのものすべてに興味があり、何でも口に入れてしまうので目が離せません。
Qどんな子に育って欲しいですか
A人の気持ちを思いやることのできる、やさしい子に育ってほしいと思います。



▶美帆姉ちゃんと一緒の真衣ちゃん